

農事組合法人の新たな挑戦

東員町山田地区は、東員町の中央に位置し、集落内には東員町役場や三岐鉄道の東員駅を有する、混住化が進んだ都市近郊農村です。

地区の農業については、これまで、任意組合である山田集落営農組合が担っていましたが、集落の水田景観や、山田の土から取れた農作物の味を次世代へ継承する為には、組織の強化が必要であると考えました。そこで平成28年5月に農家11名が中心となり、三重県東員町山田農事組合法人を設立しました。

普及センターでは、設立を支援するとともに、法人の中期目標を明確化するため、地域活性化プランを立てることを提案し、作成を支援しました。その中で法人は、人材の有効活用と経営基盤の強化のため「米・麦・大豆以外の作物栽培への挑戦」を計画に加えました。

今年度、組合員の女性2名が中心となって、ブロッコリー栽培10aにさっそく取り組み、9月20日に定植が行われました。台風18号の接近により定植が当初予定より1週間ほど遅れましたが、その後は適度に降雨があり初期生育は順調となっています。収穫は12月中旬を見込んでおり、JAへの出荷や地元産直市場での販売を予定しています。ブロッコリー栽培は今年度の成績を踏まえて次年度以降作付けを拡大していく計画です。

さらに今後、花き栽培にも取り組む計画を立てており、米・麦・大豆と野菜、花きのベストミックスによる法人経営の基盤強化を目指します。

大豆の収量・品質向上を目指して～難防除雑草対策～

桑名管内における大豆栽培の雑草防除は、播種直後における土壌処理剤一回のみが一般的で、大豆生育中の除草剤処理は普及していません。一方、大豆栽培圃場では外来アサガオやホオズキ、ノゲイトウ等、帰化雑草が繁茂して、収穫を阻害されるほか、雑草子実混入による汚粒が原因で品質低下が増加しています。

帰化雑草の防除は発生時期が遅いため土壌処理剤では対応が難しく、大豆生育中に畝間もしくは株間に茎葉処理剤を散布する方法があるものの、まだ、県内でも一般には普及していないのが現状です。

普及していない原因は、除草剤散布の手間、散布ノズルの価格、散布機との非互換性などです。そこで、簡易また安価で、しかもどの散布機にも装着可能な散布ノズルとして「吊り下げノズル」を製作し、大豆生育中の除草剤散布を普及することを目的として実証圃を設置しました。

吊り下げノズルは、ホームセンターでも販売されているL型本棚ステーを基盤として製作しました（写真1）。製作時間は1時間弱、製作費も1万円以下と簡易かつ安価であり、散布機に合わせて製作・装着するため、どんな機種でも対応できます。今回の実証圃の結果では、耐久性も十分で、畝間の除草効果も非常に高いこと（写真2）が確認されたため、担当した農家の評価も高くなっています。今回の結果については、次年度以降の大豆研修会等で現場へ普及を図っていきたいと考えています。畝間除草の普及が帰化雑草の蔓延を止める一つの手段になればと考えています。



写真1 吊り下げノズル



写真2 実証圃の様子（左：無処理区の残草状況
右：除草剤散布区の残草状況）